

埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム (OSGS)

2022 年度後期 中間報告① 菅野ますみ

自己紹介

2022 年度後期 OSGS 受講生、菅野ますみと申します。現在、高校で非常勤講師をしております。ここでは、埼玉県民の皆さんに OSGS プログラムの活動を知っていただきたく、ここまでの私個人の経験を報告させていただきます。OSGS プログラムに関心を持っていただけると嬉しいです。

私が受講を希望した動機は、大学時代にあこがれていた海外留学の夢を実現したかったことと、その姿を通して子供たちに年齢に関係なく挑戦する姿を見せたかったからです。

受講までの道筋

- ① 埼玉県広報誌で募集記事を見つける
- ② 必要書類（プロフィール、志望動機書：ともに和文・英文）
- ③ 書類による 1 次審査通過
- ④ オンラインによる 2 次審査（日本語・英語）

※英語力は 2 級程度の会話を求められます。流ちょうに話せることを要求されているのではなく、フィンドレー大学講義が理解できること、ペアの学生とのコミュニケーションが取れることが第一条件です。

OSGS プログラム概要

姉妹州である米国オハイオ州との姉妹提携 30 周年を記念して、新たにオンラインを活用したプログラム（略名：OSGS プログラム：Ohio Saitama Global Speaker Program）です。

オハイオ州のフィンドレー大学とリアルタイムで結び、「**英語で発信する力**」を日本にしながら身に着けることを目指した参加型オンラインプログラムです。

参加者には、オンラインによる**現地大学生とのディスカッションや英語によるプレゼンテーションの機会**が用意されています。また、プログラムの受講はフィンドレー大学の正式な授業として**単位認定**されます。

フィンドレー大学

The University of Findlay
フィンドレー大学は、フィンドレー市とキリスト教の一宗派であるチャーチ・オブ・ゴッド 教団によって 1882 年にフィンドレー・カレッジとして設立されました。フィンドレー大学は 独立した教育組織ですが、キリスト教の教えを敬い、その精神を守っています。

<https://www.findlay.edu/>

活動の詳細

- (1) フィンドレー大学教授による現地授業に準じた講義（10 回）←テーマ「All for One and One for All」
- (2) 埼玉県内での成果発表会（英語によるプレゼンテーション）（1 回）
- (3) その他現地学生とのアクティビティ



フィンドレー大学校門

現地学生との関わり

現地の日本語学に関わる生徒たちとペアを組み、お互いの連絡先を交換します。

2 週に 1 回のペースで ZOOM を使用したミーティング、後半に予定されているプレゼンテーションの用意を兼ねて、それぞれの国の実情を情報交換しています。

その中で、埼玉県に言及することも多くあり、積極的に魅力を発信するように心がけています。

講義内容

テーマはオランダのホフステード博士による6次元モデルです。

「ホフステード博士の研究の基礎になっているのは、1967年から1973年にかけて実施されたIBMでの調査です。約116,000人、72ヶ国のIBM社員を対象に行われたこの調査により、同じ企業の社員であっても出身国により大きな違いがあることがわかりました。

ホフステード教授はこの研究を深め、国民文化の違いを相対的に比較できる指標を作り出しました。

それが『ホフステードの6次元モデル』(The 6 dimensions model of national culture)です。」出典 <https://moveup-partners.com/national-culture/>

ホフステード 6次元モデル



<https://search.yahoo.co.jp/image/search?ei=UTF-8&fr=mcafeessl&p=hofstede%20%E5%85%AD%E6%AC%A1%E5%85%83%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB&x=n1#578512d59f9830014038556aed0dba29>

本年度のテーマ

本年度は「個人主義/集団主義」がテーマです。

そのテーマを3名で、①学校・職場、②知らない人、③兄弟・家族に分け、日米の状況を比較します。フィンドレー大学の学生と共同で作業にあたります。

私の担当は①になりました。



実際の授業の様子

講義3日目までの流れ

第1日目：顔合わせ

第2日目：ホフステード理論の説明

第3日目：事前に Findlay 大学の学生と話した内容を共有、担当外の日本人生徒からの情報追加作業

授業を通して習得している事

- ① アメリカの大学講義の流れ
- ② 授業中に発言する方法
- ③ ホワイトボード機能を使用したブレインストーミング
- ④ 日常的な会話
- ⑤ アメリカの文化・習慣

講義3日目を終えての感想

顔合わせの時に、グレッグ教授から「間違いを恐れずに話すこと」というアドバイスをいただき、緊張がほぐれました。いつもこちらの話の聞こえようとする姿勢でいてくださるので、自分の意見を表現してみようという気持ちになります。

しかし、ホフステード理論を全く知らなかったため、初回は理解に時間がかかりました。回を重ねる中で、講義の内容が深まっています。

他の二人のメンバーの意見を聞くと、別の視点が加味されるので内容が深まっています。意見交換の大切さを再認識しています。

ペア学生とのコンタクトはともて楽しいです。個人の経験を通してアメリカ文化の現実に触れることができています。

7日目のプレゼンテーションに向けて、資料作り、プレゼンテーション能力の向上を図っていききたいと思います。

埼玉親善大使として

OSGS プログラムの参加者は、期間中埼玉親善大使に任命されます。Instagram を使用した情報発信を行います。メンバー3人の住む地域、趣味を利用した個性的な情報を発信していきたいと考えています。